

---

# ぴゅあ・ヌーディスト&妄想特急

かにみそ先生

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ぴゅあ・ヌーティスト&妄想特急

### 【Nコード】

N5967F

### 【作者名】

かにみそ先生

### 【あらすじ】

がっかりサラリーマンの『カツオ』の家に、常に全裸でいるのにエッチだけは絶対にダメという『シホ』という乙女が住むことに・  
・エッチはできないけど、なんだかんだで楽しい日常を送るカツオだが・・・

**第1話 こんな出会いをしてみたい妄想野郎編（前書き）**

この小説は、過激な性描写はありませんが、少しエッチなネタが多いため、留意してお読みください。

## 第1話 こんな出会いをしてみたい妄想野郎編

このシチュエーションは・・・  
小説かゲームに違いない!!

道路の真ん中に全裸の乙女が寝ているんですけど・・・

ちなみに、今は夜中で山中の道路ときたもんだ。

こんなシチュエーションで出会ったとしたら、

「熊や猿などの、獣の類」

「ダツシユババアなどの、もののけの類」

「ワンダーフォーゲル部などの、ヒゲ的な類」

のようなものでしょ。普通は。

でも、今、車のライトに照らされてるのは、倒れている女の子ですよ！乙女ですよ！ですよ！

し、しかも一糸まとわぬ・・・

裸ですよ!!!

なーんて、こつた!

28年間、真面目に生きてきてよかった!

28年間、こつこつ努力してきてよかった!

28年間、貞操を守ってきて・・・いや、そんなことはどうでもいい!!!

冷静になれ!俺!スズキ カツオ 28歳!!!

普通に考える！これは、罠だ！新手のテロに違いない！！  
この裸の乙女に触れたとたん、何か変なウイルスに感染して、ジャ  
ック・バウアー的な人に、「早く後ろを、向けえ！」と銃を突きつ  
けられるに……

……って、混乱してるよ、俺！！

こりゃ、どう考えても事故だよ。事故。

誰かに、ひき逃げされたに違いない！！

110番！110番！

……うっわ、携帯のアンテナたってねーし！バッテリーねーし！！

冷静になれ！俺！スズキ カツオ 28歳！！彼女なし！！！！

ここは、冷静に紳士的な対応を取らねば！！！！

@@@@

うわ、めっちゃ、かわいいよ……

近付いて、声をかけようとしたはいいけど、めっちゃめっちゃかわい  
い上に、めっちゃスタイルいいよ、しかも、裸ですよ……

気を失っている間に写真でも……

……て、おい、俺はそこまで地に落ちては、おらん！！！！  
紳士的に振るまわらねば！！！！

俺「大丈夫ですか、しっかりしてください！」

乙女「……う、うん」

(「、声もめっちゃかわいい」)

俺「どうしたんですか!?!」

乙女「あ……」

(あれ、すごく目が潤んでるんですが……)

乙女「す、すごく怖かったです……」

俺に抱きつく裸の乙女……

こりゃ、もう!俺、けだものになっていいですか!?!

お父さん、お母さん、ずっと守ってきた(というか、誰もほしがらなかつた)貞操を、ここで捨てることになります。

つて、冷静になれ!俺!スズキ カツオ 28歳!?!彼女なし!

!?!童貞!?!?!?!?!

俺「どうしたんですか!とにかく、僕の車の中へ」

@@@@

これが、裸の乙女こと「ミナミ シホ」との、生活の始まりだったわけ……

第1話 こんな出会いをしてみたい妄想野郎編（後書き）

## 第2話 裸エプロンは男の夢ですたい編

ん、台所から音が聞こえる・・・

朝の目覚めは、焼きたてのトーストとベーコンエッグ・・・  
つて、俺、一人暮らしじゃん！

あれ？なんか部屋片付いてるし、台所に人影が？

「あ、お目覚めですか？」

台所からの、かわいいい声に全ての記憶が蘇る！！  
ゴゴゴゴゴゴゴゴ！！

@@@@@@

俺「もし、よかったら僕のコート着てください」

俺「でも、どうしてあんなところで倒れていたんですか？」

乙女「あ、あの・・・」

俺「いや、何か事情があるようでしたら、お話しなくても大丈夫ですよ」

俺、なんだかかつこいいよ！

助手席に裸の、めっちゃかわいい子が座ってるのに、なんと冷静な会話！

これぞ、紳士の極み！しかし、冷静な口とは裏腹に、下半身様はもう大暴れ寸前ですよ。

落ち付け！俺のムスコよ。

まだまだ！まだ時は熟してはおらん！



いや、もう少しで俺のアパートだ！

俺！ここで死んだら、わが生涯に一片の幸せなしだぞ！

俺「こここここk・・・ここが、僕のアパパートですれるげす。  
乙女」だ、大丈夫ですか？血が、出ているようですよ！」

鼻血大噴射・・・

いまどき、中学生でも興奮して鼻血出さねーよ・・・

俺、最高の乙女を目の前にして、死ぬのか・・・

しかも、あのコートの下は裸だぜ・・・

つて、考えたら再び鼻血大噴射！！！！

カンカンカンカンカン！俺、玄関前でKO！！！！

@@@@

「あの、昨夜は大丈夫でしたか？」

台所に目をやると・・・

昨夜の乙女が・・・

裸エプロン！！！！！！

鼻血ブっブっブっ！！

俺、再びKO。

### 第3話 日常的なエロさが好きですよね編

トーストに目玉焼き。

うん、実に普段の朝食と変わりはない。  
が、しかし、普段と違うところがある。

それは、俺の目の前に全裸のかわいい乙女が、座っているという  
とだ！

もう、トーストなんか食べてらんねえ。

赤مامシドリンクを5リットルほど、持ってこい！

いや、むしろ昨日までは、キテレッズ大百科のベンゾウさんのように、  
全く女つ気がない生活だったでわないか！

つか、これは夢？あ、そうか幻覚か！

あははははは！あははははは！

乙女「あの・・・昨夜は本当にありがとうございました。」

俺「い、いや、何、ぜんぜん構いませんよ。むしろ、好きなら  
居てもらって構いませんよ」

いや、むしろ一生住んでください。

もう、俺の脳内では嫁ですから。

俺「それより・・・あの、服を・・・着ないんですか」

って、何言ってるんだ！俺！

この！紳士ぶった口め！この野郎！

乙女「あ、すいません。つい、いつもの癖で。」

俺「え、いつもの？あ、いえいえいえいえいえいえいえ、ぜんぜん、そのお姿でも結構ですよmばj・あs」  
乙女「あの・・・実は・・・あまり服を着るのに慣れていないんです。家では、ずっと裸で過ごしてるので・・・あ、ごめんなさい、私ったら恥ずかしい」

うわ、めっちゃ顔を赤らめて、すごいこと言ってるよ、この乙女。でも、ぜんぜん大丈夫ですよ！

最近、全裸で生活する人が増えてきているって、ニュースで聞いたことあるっすよ！

ぜんぜん、恥じることないっす！

っーか、俺も脱ぐっす！

俺「あ、もしよければ、僕も服を脱いだほうがいいんでしょうか」

おい！俺の口め！なんとという大胆な発言なんだ！

それは、もうっつ屋根の下で男女が裸にいるということは、xxx

や やくあwse dr ft gyふじこ1p；@・・・ブフウ！！！！

乙女「え・・・あ、いや、それなら、私が服を着ます。裸を見られるのは慣れてるんですが、男の人の裸は・・・」

俺「え？」

乙女「あの、私・・・その・・・セツ・・・あの・・・アレするの・・・怖いんです」

俺「・・・」

乙女「あの、ほんとに、ごめんなさい。変に思われるといけないんで、服・・・着ます」

俺「え？あああああ、じゃ、僕、服着てますんで、いくらでも裸でいてくだささささいsじよ」



「？」

春！人生の春！いや、季節はこれから極寒の冬になろうとしているが、俺の中では春だよ。

「フーか、もう夏でもいいや、熱帯雨林気候でもいいや。」

こうなったら、俺の中のけだものを、封印するしかない！

電子ジャーを持ってこい！マフーバで、けだものを封印じゃ！

乙女「あの、ちょっと買い物に行きたいんですが」

俺「え、いいですよ」

乙女「あの・・・また、コート貸していただけますか」

・・・え？

って、ことはコートに全裸で外出ですか？

こりゃAVか！

露出物のAV撮影か！！！！

封印したはずのけだものが、暴れまくってるよお！

#### 第4話 露出物AVの撮影は苦勞してるね編

デート！デート！

ただの買い物だった？

そんなことはわかってるさ。ははん。

でもねえ・・・

一緒にいる乙女はコートだけですから！

しかも、俺のコートはけっこう丈が短いわけで・・・ちよつとかがむと・・・

鼻血ブツ！！

いや、俺だつて童貞とはいえ、女性の裸を見るのは初めてではない。もちろん、健全な男子諸君ならわかるように、生の女性の裸を童貞くんが見るためには、福沢諭吉さんが書かれたお札が何枚も必要なのである。

そして、そこに愛はないのである。

乙女「あ、これ、すごくかわいい」

俺「うん、すごくかわいいね。あ、これもいいね」

な、なんとというナチユラルな恋人トーク！

いや、むしろ夫婦だ！なぜなら、もう俺の嫁なわけだ！

日用品を買いに、ドン ホーテに来ただけなのだが、俺の脳内では東京のDの国でデートしているのだ。ははははは。

あ、でも、かがむと見えちゃうんだよね・・・

っーか、なんか、さっきから変なおっさんが、後ろからついてくるし。

おい！このやる！写メ撮るんじゃないねえ！！

すかさず、俺、乙女の背後に回りこみ、ナイスディフェンス！  
ディーフェンス！ディーフェンス！

と思ったら、なんか万引きGメンっぽいねえちゃんまで、こっち見てるし！

あ、もしかして警察の方？

もちろん、これってわいせつ罪・・・  
ということではダツシユ逃げ・・・

露出物のAV撮影がいかにもスリリングに行われているか、よくわかりましたよ。

乙女「ある程度、買い物も終わりました。ありがとうございます。」  
俺「もしよければ、ドライブにでも行きませんか？晴れているし、気分転換にどうかな」

俺は、けっこうドライブが好きだ。

そして、山が好きだ。林道をドライブする癒しの時間は何者にも変えがたい。

とはいっても、車はスズキの軽だ。

車なんか関係ねえ！誰が助手席に乗るかが、ドライブの最重要点だ。

はい、すみません。最近まで、助手席にはコンビニ弁当が乗ってました。

だが、今日は違う！

助手席に誰もが羨む、乙女が座っているのだからなあ。

あ、ちなみにコートしか着てませんが・・・

乙女「天気がよくて、気持ちいいですね」

俺「この山って、あまり人には知られていないけど、景色が最高な  
んですよ」

乙女「だから、ほとんど車が通らないんですね。・・・あの、この  
コート脱いでもいいですか・・・」

頬を赤らめながら、また、すごいこと言ってるよ！乙女！！

ええ！これって、俺の初めての場所は屋外ってこと???

いや、どんと来い！屋外！

むしろ、ラブホよりも開放感があっただけではないか！

ごっちゃんです！

まさに『アース is ラブホ（地球はラブホです）』

## 第5話 裸婦画って基本的に中世のエロ本ですよね編

いつもなら、一人で見る景色。

んで、哀愁漂わせながら、コンビニ弁当食べるのが今まで。

それが、目の前に一糸まとわぬ裸の乙女がいるわけですよ。うわ、めっちゃ絵になる。

ある意味、ゲージユツですね。ゲージユツ。

「性欲をもてあます」とか、言つてた自分が情けないくらいですね。いや、ピカソとかゴッホぐらいしか知らないけど、美しい景色の中でたたずむ美しい乙女・・・

この光景だけで、ご飯を何杯でもおかわりできますね。

あのさらさらヘアで1杯

あのうるうるした瞳で1杯

あの赤い唇で1杯

あの豊富な胸で1杯・・・いや、2杯だ

あのくびれたお腹で1杯

そして、かわいいヒップで1杯

あのすらっと長い足で1杯・・・いや、これも2杯

そして・・・あの黒いヘアの奥にある・・・とりあえず、米俵持つてこい！！！！

乙女「風が冷たくて気持ちいい・・・」

ああ、風に嫉妬したよ。俺！

俺もぜひ、気持ちいいと言わせたい！

このエロい風めえ！

乙女「何か、昨日の嫌なことを忘れるくらい・・・あ、ごめんなさ

い、変な話しちゃって」

冷静に考えてみれば、昨夜、乙女とは出会ったばかりで、乙女が何者で何であそこに倒れていたか、全くわからないんだよな。

わかったことといえば・・・

乙女が、かなりのレベルのヌードリストだということである。

そんな俺は、全裸の乙女を目の前にして生殺し状態になっているわけであるが・・・

そこは俺。修行僧のような気持ちで、乙女を見るわけである。

ほーら、もう乙女が、ただのお人形のようにしか見えなく・・・

乙女「きゃっ！虫がいた」

修行終了！

俺の中のけだもの復活！！！！

だって、裸でこんなかわいい子に抱きつかれたからには、もう、下半身からビーム炸裂するわけで、メガ粒子砲充填完了であります！

乙女「あ、ごめんなさい。私、虫が苦手なんです」

ああ、至福の時間終了。

もっと抱きついてていいんですよ。

でも、あの胸のや~~~~らかい感触・・・

虫さん、ありがとう！愛のキューピットだね。

乙女「こうやって、カツオさんといるとすごく心が和みます。もう少し、一緒にいてもらっていいですか」

俺「におshhdふおいあhsぢあs！！ぜひぜひぜひ、今晚も泊まってください！！いや、むしろ何泊でも！」

乙女「本当ですか。ありがとうございます」

吟じます。

何だか、今夜いけそうな気がする。

あると思います。

いや、フーか、もうありありだろ。

もう、愛の告白としか思えねえ。

いよいよ、俺の時代到来か!?

こうなったら、今夜こそ!

イッツァ! コツクリターーーイム!!!!

## 第6話 シングルベッドで2人夢見てたあの頃編

眠れないアル。

毛ほども眠れないアル。

とりあえず、我が家には布団が一つしかない。

そして、なぜか家には全裸の乙女が宿泊中。

つまり、これはどういうことであるかということ、俺のすぐ隣で裸の乙女が熟睡中なのである。

そういえば、今日一日中、裸の乙女と一緒にいたわけだが、その体には触れていないんですよ。

あ、抱きつきはあったけど、服の上からじゃ感触が当社比80%ダウンですよ。

それにしても、裸で、しかも男と一緒に寝れる乙女のその心の広さに乾杯です。

多分、100万人中100万人の男が、手を出さずにはいられないシチュエーションですが・・・

俺は、なんも手が出せていないわけで・・・

乙女「すー すー」

あ、乙女がめっちゃ寝息たててる。

ということとは・・・

ビッグチャンス到来！

ということ、以下は大人タイムを実況中継したいと思います。

残念なのは、俺に背を向けて寝ているということ。

とりあえず、背中しか触れられない状況ではあるが、それはそれ。

乙女の白い肌に指で触れてみる。

乙女「う・・・ん」

俺「h d oは0いh s d oあいh d oいは0！」

やべえ、起きたかと思った・・・

つか、背中を指で触るだけでも黒ヒゲ危機一髪ものだよ。

よし、調子にのって髪に触れてみる。

うわ、めっちゃ、さらさらだ。

なぜだ、今日は我が家のシャンプーを使ったはず。

同じシャンプーなのに、俺の髪はタワシのようにゴワゴワさ・・・  
髪の素材が違うのだよ。素材が。

よし、次はお尻を・・・

さわさわつと・・・

つて、なんで、痴漢みたいなことやってんだ！俺！

この状況で、痴漢プレイっすか！

いつから、イメクラになっただ！我が家！

しかも、痴漢して喜んでいる俺の中のけだものがあるよ。

とりあえず、この手は一生洗わないことを宣言したい。

乙女「あ・・・う・・・ん」

寝返りキターーーーーー！！

うおおおおお！今日、乙女の裸を穴の開くほど見たが、こ、こんな間近で見ると・・・

理性さん、さようなら。

とりあえず、胸をポチツとな。

や！やわらかい！

これなら、至高の美食家先生もなつとくのやわらかさです。  
柔軟材仕上げか！この乙女の胸は！

も・・・もう、我慢できませんぜ。

指の目指す先は・・・

そう！あの黒い茂みに隠された神秘の部分であります！閣下！  
我が指よ！全速前進だ！

茂みへ進め！シュポー！シュポー！

ん、この毛もなぜか、サラサラしてる。

なんという、アジアンビューティークオリティ！！

つて、アンダーヘアに感動する余裕があるなら、早く！早く！その  
先へ進め！シュポー！シュポー！

乙女「う・・・ん。」

乙女寝返り！ガーーーーーン・・・

我が隊！全滅であります！閣下！

あともう少しというところで、粉碎いたしました！

だけど・・・いろいろ触れて得るものは大きい戦でした！

あざーーーーす！！

結局・・・乙女は朝まで背を向けて寝てましたとき。

んで、俺、プチ痴漢のやり過ぎで寝不足・・・

でも、肝心なところは触れませんでした。が、けっこついろいろ触れ  
たわけで・・・

なんというR-15クオリティ！

これ以上がんばったら、18禁ですよ。

・・・って、こんなだから童貞なのか・・・

## 第7話 たまったときは会社のトイレで妄想編

眠い！

ラリホーの呪文を唱えられたくらい眠い！

しかし、俺にはまだやることがある！

それは・・・

会社のトイレで一発抜いておくこと・・・

だって、しょうがないじゃん！！

つい今朝まで、あんなかわいい乙女が全裸で一緒にいてくれたのに、何もできなかったわけですよ！

これで眠ってたら、夢精しちゃってましたよ！

俺、中学生かよ！

ということ、家に帰ればまた全裸の乙女と過ごせるのはいいが・

・  
抜く時がない！

ということ、しょうがなく会社のトイレにて、一人でがんばろう  
というわけで・・・

決して変態というわけではありません。

それにしても、乙女の今朝の笑顔・・・

乙女「いつてらっしゃい。気をつけてくださいね」

ああ！くそ、これでチューでもあれば、完全に夫婦じゃないか！

乙女かわいいよ！かわいい！しかも、サービス満点だよ！



社員A「何か、今日のトイレ、やけに変な臭いしなかった？」

社員B「あ、お前もそう思った？なんかさあ、すっげえイカ臭いの」

すみません・・・犯人は俺です。

## 第8話 ダスキンのお姉さんが全裸で掃除編

「こらあ！カツオ！」

あ〜ん？誰がカツオだこらあ！

・・・つて、あ、メタボ課長・・・

メタボ「何か、今日はいつにも増して眠そうだな、おい」

俺「あ、すみません。ちょっと寝不足で」

メタボ「ただでさえ、建設業界は不況だったのによ。早く見積もり作って、相手さんに渡してこいや」

メタボ「このイソノ建設の命運がお前の営業の腕にかかっていると、恐ろしい」

なぜ俺が営業をやっているかという・・・

そう「イソノ建設のスズキ カツオ」だからです。

つまり、「イソノのカツオ」なわけです。

だから、速攻で名前覚えてもらえるわけです。

ああ、かつこ悪い・・・

この事実を知ったら、乙女・・・幻滅するかな。

・・・ん、なんか冷静に考えると・・・

なんか、話がめっちゃめっちゃ上手すぎないか！

こんな、かつこ悪い俺の元に、突然、全裸のきやつわいい乙女がいるわけですよ。

普通ならありえねー！

・・・こ、これは新手の詐欺か！！！！

なんてこつたー！

ということは、今、家には乙女（詐欺師）しかいないはず！

俺の預金通帳やクレジットカード、エロDVDコレクションが危機に瀕してゐるではないか！

・・・いや、まあ預金残高は・・・  
つて、ほつといてくれ！

今頃、家はもぬけの空かもしれん！

俺「課長！大至急、見積もり提出してきます！」

メタボ「あ・・・ああ、突然、豹変するなよ。気色わりい」

俺「行ってくるであります！」

メタボ「オオシマ建設さんの仕事、ぜつてーに取ってこいよ！」

うおおお！

乙女（詐欺師）めえ！

こんな上手い話があるわけねえ！

化けの皮を暴いてやるぜ！

ガチャ！

乙女「あれ、こんな早く、どうしたんですか？」

・・・全裸に

・・・三角巾に

・・・掃除機

そうきたかー！ー！ー！ー！ー！

うおおおおん！

少しでも疑った俺のバカ！

あ、でもこの姿・・・

うおー！これはこれで、ごっちゃんです。

乙女「あ、勝手にお部屋片付けてたけど・・・ごめんなさい」

俺「だおいdじゃおぴ！いいいいいやや、ぜんぜん、ありがとう  
ごさいますでするんです。ちょっと、仕事の合間に寄てみたあるよ」

乙女「あ、じゃあ、まだ仕事なんですね。今夜は、私の手料理食  
べてくださいね」

・・・なんて、いい子なんだ・・・

そんな、いい子が掃除機がけをして・・・

って、掃除機かけながら乙女が背を向けると・・・

ぬはあ！

x @が、もろ見えではないですか！

d jばおj dばそj d！！

メダパニ！メダパニ！

うおおおお！鼻血イリュージョン！！！！

乙女「大丈夫ですか！！！」

俺！再び玄関前でK.O。

## 第9話 裸で料理するときには火傷に気をつける！編

前略

おふくる様

今日、俺は観音様を拝ませていただきました。

それはそれは、とても尊いお姿でした。

これから悟りを開いて生きていこうと思います。

悟りを開いた俺の午後からの仕事具合は、それはそれはジョジョのオラオラに匹敵するほどでした。

俺「オラオラオラオラオラオラオラオラオラオラオラア！」

メタボ「なんだ、今日はいつもの3倍は気合入ってるな・・・」

キーンコーンカーンコーン

俺「お疲れ様でしたー！」

その日の俺は普段の3倍のスピードで仕事をこなし、5時に速攻で帰宅したわけである。

まさに、シヤア専用俺！

ガチャ！

乙女「あ、おかえりなさい」

・・・全裸に

・・・エプロンに

・・・スリッパ

そうきたかー！ー！ー！！！！

ぬはぁ乙女に抱きつきたい衝動が激しく俺を揺さぶるぜ！  
この野郎！

俺は、世界一の幸せもんですじゃ！

乙女「あつたかいうちに食べてくださいね」

う・・・美味しい・・・

ここは・・・ノーパン美食倶楽部ですか・・・

乙女「あの・・・お口に合いますか・・・私、あんまり慣れてなくて」

大丈夫！料理といえば、もやしを炒めることくらいしかできない俺には、最高の料理です。

乙女「いっぱい、食べてくださいね。あ、グラタンができたかな」

・・・全裸に

・・・スリッパに

・・・グラタン持つときの厚手の手袋っばいやっ！

ぬはぁ！これはこれで！

グラタンさん！グツジョブ！

乙女「あん！熱！」

乙女の胸にグラタン皿が触れたー！

グラタンさん！ユーアーチャンピオン！

乙女「あ、チーズ、入れすぎちゃったかな・・・あ・・・私、食べるのが下手で」

グラタンのホワイトソースとチーズが、乙女の口元に付いた――！！  
それを小指に絡めて舐めて、恥ずかしそうにこちらを見る――！！

湧き上がるグラタンコール！  
グーラータン！グーラータン！グーラータン！

乙女「あの・・・食べながら聞いてほしいんですが」

乙女「ずっと居ていいと言ってくれたんですが・・・」

乙女「・・・来週の休みに、私、家に戻ろうかと・・・」

グーラータ・・・・・・

なに――――！！！！

突然の死の宣告！！

おのれ！アーリマンめ！

・・・そだよね・・・

恋人というわけではないし・・・

いや、むしろ来週の休みまでは、ずっと居てくれると前向きに・・・

乙女「ぜひ、カツオさんに私の家でお礼がしたいのですが」

・・・ん？

それって、乙女の家に入っただけのこと？

ぬはぁ！二階から目薬！じゃなかった、棚からぼたもち！

お礼・・・お礼！

ま・・・まさか！



## 第10話 ヨガをすると火が吹けるようになるのかな編

一週間・・・

この野郎!!!

メタボの野郎!!!

俺を残業漬けにしやがって!!

おかげで、ほとんど家にいる時間がなかったじゃないか!

乙女との思い出の時間を奪いやがって!

乙女の変わりにお前が全裸になってくれるのか!メタ・・・

やべ、想像したら気持ち悪・・・

でも、俺のがんばりのおかげで、超大手ゼネコンのオオシマ建設と下請契約結べる予定なんだからボーナスくらい出せよ。

まったく、オオシマ建設のお偉いさんにバツタのように頭を下げて・

・

しかも、イケメンで若いくせにお偉いさんだよ!

ああ、むかつく!

ということで、早く、乙女を見て癒されようっと。

@@@@@@@@@@

乙女「あ、お帰りなさい。早かったですね」

・・・全裸で

・・・テレビの前で

・・・ヨガ!!!!!!

おpsどあjぱおsあjrpそd.jぱああぼ!!!!!!!!!!  
これは!これは!これは!

乙女「ヨガって、すごく体にいいですよ」

って、めっちゃめっちゃ・・・

そのアングルは!

こっちが、目をそむけるくらい恥ずかしいポーズでは・・・

乙女「ううん・・・あ・・・私、体固いから・・・」

!!

とりあえず、ヨガを生み出した人に心から感謝したい。  
インド人にかんぱーい!

@@@@ @@@@ @

乙女「あの、本当に一週間、お世話になりました」

そうか・・・今日で、乙女は俺の部屋から去ってしまうのか・・・

乙女「見ず知らずの私を、こうして部屋においてくださるなんて・・・

」

いや、そのお姿なら、誰でもお部屋においでいただけると・・・

乙女「あの・・・また、カツオさんに会ってもいいですか」

そだよ!そだよ!部屋からは去るけど、また、会おうと思えば会え

るんじゃない！

・・・でも、この悲しさは・・・

あゝ、もう、夜の布団の中で痴漢ができないのか・・・

あゝ、もう、ノーパン美食倶楽部はできないのか・・・

あゝ、もう、掃除機やヨガといった恥ずかしいAngelは・・・

つて、俺の変態！最低や！

そういうエロい気持ちは捨て去れ！俺！

エロい気持ち退散！

正直な話、俺、乙女のこと、めっちゃめっちゃ好きになってますよ。

だって、めっちゃめっちゃ、いい子なんですもん。

もう、全裸でなくても好きになっちゃいますよ。

はあゝ・・・

乙女・・・

なんだかんだ楽しい生活だったけど、チューくらいしたかった・・・

・・・つて、そういうえば明日は乙女の家に行けるんだ！

そうだ！忘れてた！お礼！お礼！お礼！

エッチはできないにしても、チューくらいは、お礼ということでき  
てくれるだろうか！

よしゃあ！

気合入るぜ！

うおおおおおお！

わが生涯に一片の悔いも残さねえ！

## 第11話 お姉様登場！もはやハーレムですよ編

・・・なんか、すごい家なんですけど・・・

乙女「あ、ここが私の家です」

俺のスズキの軽がチヨロQに見えるくらいご立派な家なんですけど・・・

乙女「あ、入ってください」

しかも、めっちゃオシャレな作りの家だなあ。

建物探訪とかに出てきそうだよ。

・・・って、乙女！もう脱いでるし！！！！

乙女「やっぱり、自分の家が一番、開放感があって気持ちいい」

ええ！ご家族の前でも全裸なんですけど！この乙女！

俺は・・・

俺は・・・

俺は・・・

乙女のお父さんに嫉妬！！

乙女「ただいまー」

「たくもう！家に帰ってすぐ裸になるんだから！ちよっとは羞恥心というものを・・・」

「あ、やだ！お客さん！あ、シイがお世話になったっていう、スズキさん！」

.....

全裸がもう一人.....

しかも、こちらにもスタイルがよろしく、美人ときている。

ここは、桃源郷.....

いや、もはや天竺！

ああ、俺、実は死んでるんじゃないね。

乙女「あ、私の姉です」

お姉さま！

こりゃ、全裸大好き姉妹ですか！

しかも姉は美人系で妹はかわいい系で、どちらも最高にスタイルがよろしく、それでいて肌がきれいで.....

俺.....もう、カッチカチャで（部分的に）

「あ、どうも初めまして。姉のナオです。」

@@@@@@

それにしてもなんとというフカフカソファアー。

こりゃ、トランポリンだ。

乙女「うちは、姉と二人暮らしなんで、気兼ねしないでくださいね」

あ、乙女ってご両親とは住んでいないのか。

お父さんに嫉妬した俺のバカ！

姉様「じゃーん、スズキさんへのお礼に、今日は私が作ったフルコ

「ス料理でーす！」

いや、もう料理なんかなくてもフルコースです。ある意味。

「かんぱーい」

全裸の美女と乙女に囲まれて、美味しい料理と酒を味わう・・・  
俺！多分、今、世界で5本の指に入るビップ待遇すよね。  
ビバ！ハリウッドセレブ！

・・・それにしてもよく見るとナオさんって美人だなあ・・・  
・・・あれ、でもどこかで見たこと・・・

あ！ドンキーテにいた、万引きGメン風の女！！！

・・・あ、そか・・・

だから、姉様は俺のことを知ってたのか。

あの状況で乙女の搜索願い出てなかったのもうなずける。

考えてみれば、何一つ身に着けずに道路で倒れていた乙女が、買い物できるわけですな。

つまり・・・俺の携帯使って姉様に電話して、ドンキーテに財布を持ってきてもらった。

！！

ということとは！携帯の履歴を見れば、既に姉様の番号ゲットですよ！  
俺の携帯！グッジョブ！！！！

何か今日の俺、頭がさえてる〜。

@@@@

あゝ、けっこう酔いがまわってきた・・・

それにしても、めっちゃめっちゃ美味いワイン・・・  
第3のビールしか普段飲めない俺には、もったいなさすぎです。

乙女「すー、すー」

って、乙女、酔って寝ちゃってるし!!

姉様「もう、シイったら、お酒弱いのに無理するから」

んんんんん?

もしや現在、姉様と実質、二人つきり状態!!

姉様「スズキさんて、けっこう飲めるタイプでしょ。もう少し、私に付き合っしてほしいな・・・」

はいはい!!!!!!

いくらでも飲みます!

いくらでも付き合います。

姉様「そっちに行っ方がいい・・・」

近いつす!もう、その豊満なお胸様が近いつす!

まさか、乙女ではなく、姉様とこんな展開に!!!!!!

うおおおお!

こりゃ、急展開か!!!!!!

次回!『あくていぶ・ヌーティスト&妄想特急』!

お楽しみに!!

## 第12話 乙女の過去と姉様の誘惑で俺どうする編

「実はね、私たちの両親はもうこの世にいないの」

ええ！いきなり重たい話っすか！

おれ、そういう話へのコメント苦手なんですけど。

姉様「でも、裸のシイと暮らしてみてもどうだった？」

え、はい！それはもう最高の日々で・・・

姉様「シイも、私もねヌーティストなの。私は・・・裸でいるのが気持ちいいから。今でも、ほら・・・」

・・・！！！！！！！！！！

「・・・あ・・・」

！！！！！！！！！！

俺、もうこの指ゼットたいに洗わないっす。

え？つてかもつ、こりゃ姉様、誘いまくりですよ。

だって俺の手をつかんで、自分の・・・

jどあsjdぼあsjばおあs

まて！まだまだ！俺！もう少しガマンだ！！

姉様「でもね、シイは物心付いたときから一家で裸で暮らしていたから・・・裸でいるのが、当たり前のことになっているの」

家族で全裸！！！！

いや、ヌーディストの極みですよ。

そんな家で育てば、俺も全裸になるわな。

姉様「昔はうち、すごく貧乏でね。夏の節約とかいって裸で過ごすうちに、年中こうなっちゃったわけ」

いや、節約とかそういうレベルでは・・・

姉様「でもシイは、男の人の前でも平気で裸になれるから・・・気付いているでしょうけど・・・」

・・・あ、いつの間にか暗い話に・・・

姉様「好きな男の人に、突然、襲われそうになって・・・シイは傷ついたので・・・」

だから・・・エッチには拒絶反応を示すわけだ・・・  
多分、俺もあのと看、けだものになっていたら・・・

姉様「あ、でも未遂に終わったから・・・シイはヴァージンよ」

はい、きれいなピンク色であることは、何度も目視により確認させていただきます。

@@@@@@

それにしても、姉様、ザルですか！？

ワイン何杯飲むんだ！？

でも、姉様はお父さんの仕事をちゃんと引き継いで社長業をしているという話を聞くと・・・  
俺とはぜんぜん違うなあ・・・

姉様「・・・ねえ、ところで、さっき私のここ触ってみて・・・  
どう・・・だった・・・」

くぁw背drftgyふじこIrp:@!  
って、突然、その話!!!

てか、姉様、顔めっちゃ赤くなってるし、息遣い荒いんですが!

姉様「もつと、いろんなところ・・・触っても・・・いいよ・・・」

ぷふう!!!!!!!

姉様!姉様!姉様!

お礼って、このことだったんですね!!!

姉様「ねえ・・・ここに・・・あ・・・」

サプライズ!!!

うおおおお!苦節28年!!!

初めて童貞を捨てる日がやってきました!

さらば、童貞!

いや、童貞に何の未練もないけど!!!

これで、真の成人になります!!!

それでは!!!

.....

あ・・・

でも、乙女・・・

すぐそこで寝てるんだよな・・・

シヨックだよな・・・

姉様と俺が、乙女の目の前で・・・

男と女の関係に・・・

・・・

・・・

(・・・シイは傷ついたので・・・)

・・・

・・・

・・・

・・・

俺「お姉さん！ごめんなさい！僕、シホさんがいるのに、お姉さんとはできません！」

あああああああああ！！！！

俺の口！かっこいいセリフだけど！！！！

ちくしょーーーーー！！

なんで、こんなにちくしょーーーーー！！

結局、俺は永遠に童貞の十字架を背負って生きていく運命なのさ！！

姉様「……よかった……」

え？

姉様「あなた、本当にシィのことを思ってくれているのね」  
ん？

姉様「ごめんなさい……実は、あなたのことを試したの」

は……はい???

姉様「あなたなら、シィのことを傷つけないでいてくれるわね」

いや、もちろんです！姉様！

さっきは、つい魔が差したただけでありまして！

いや、その！やましい気持ちなど！！！！

姉様「実はね……シィ……ストーカーに悩まされてるの……」

### 第13話 我輩のスタンド名は『バタードッグ』編

すみません、俺、一生分の運を使ったかもしれません。

こんな豪邸に！

全裸の姉妹に囲まれて！

当分、暮らせるなんて！！！！

ある意味、ストーカーに感謝！

・・・つて、いかん。いかん。

@@@@@@

姉様「男性がいつも家にいてくれれば、ストーカーもあきらめるし、私たちも安心できるから」

俺「え？ここに当分？」

姉様「ええ。あなたなら、シイといっても変な気を起こす心配はなさそうだし・・・だめかしら」

つて、そんな下から見上げるような目線で・・・

しかも瞳、うるうるさせながら・・・

つて、俺の手をおっぱいに当ててお願いされれば！

120%断る理由はありません！

姉様「私も、仕事の都合で家に帰れない日が多いから・・・ま、その分、シイと楽しんで！」

@@@@@@

それにしても、乙女の家って広いよなあ。

今日は祝日だけど姉様は仕事でいないし。ちょっと探検でも・・・

乙女「あ、カツオさん！あの、私の愛犬のアルルです」

バター犬！？

いや、すみません愛犬でした。

つか、でか！たしか、ゴールデンなんとかって犬種だったような・・・

乙女「ほら、アルル、カツオさんに、ごあいさつ・・・って、やだ！アルル、くすぐりたい」

この！

スケベ犬めええええ！

乙女の胸を舐めまくってるじゃないかあ！

ああ！でも、犬って羨ましい！！

乙女「あ、ほら、やめなさいって・・・あ・・・だめ！そんなとこ」

って、犬の舌が下半身に！！！！

ぶほお！

つか・・・つか、この犬！

俺とお触りパターンが一緒じゃねえか！

・・・まさか、俺のスタンドか？

乙女「あ・・・やだ・・・アルル・・・ほら、もう・・・」

間違いない！この犬！俺のスタンドだ！

レロレロレロレロレロ！を使うんだ！

乙女「や・・・ん・・・もう！ほら、お座り！」

ガーン！

アルルは俺と違って、きちんとしつけが行き届いているようだ。

乙女「もう、アルルのよだれで、体がペトペト・・・」

ぬは！

まさに、ナチュラルローション！

艶やかに光沢を放つ、乙女の美肌！

アルル、さすがは俺のスタンドだ！

よくやった！

乙女「あの、シャワー、浴びてきますね」

うおおお！一緒にシャワー浴びてー！！

アルル！俺も舐める！

.....

アルル・・・

さすがは俺のスタンド・・・

男は興味ないらしい。

乙女「あ、そうだ！どうせシャワー浴びるなら、トレーニングしてからにしようかな」

乙女「こう見えても、私、体鍛えてるんですよ。あ、でも、軽い運動くらいですけど・・・」

・・・確かに、あのウエストやヒップの維持はトレーニングでもしなきゃ保てません。

乙女「よろしければ、カツオさんも一緒にしません？」

・・・つて、俺も一緒に・・・

な、なんか萌える！

全裸でトレーニング！

## 第14話 ボン！キュ！ボンツ！の維持は大変なのさ編

自宅にトレーニングルームまで完備されてるとは・・・  
セレブ恐るべし！

俺が、給料日前は毎日、もやしを食っている生活だというのが！  
いいもん！格差社会になんて負けないもん！

さて、乙女はというと・・・

ベルトコンベアみたいなのの上を延々とランニングするマシンで・・・

って、胸！揺れ過ぎ！！！！

朝からなんですか！そのけしからん胸は！！  
実にけしからん！

乙女「はっ・・・はっ・・・あ、カツオさんも自由に使ってください」

ウツス！俺は乙女を見てるだけで充分、鍛えられる気がするツス。  
ちなみに外国では全裸でマラソンをするという国もあるらしいです  
が・・・

ぜひ、乙女とともに出場してみたい！

おや？乙女は次は腹筋運動ですか。

やはり、あのくびれたお腹は努力の賜物なんですね！

乙女「あ、もしよければ、私の足を押さえてもらえませんか」

な！ななななんですと！

も！もちろん、喜んで！  
店長！出前行って来ます！

乙女「うーん！45・・・はあ、はあ・・・46・・・」

か・・・顔が近い！

というか、息遣いがめっちゃ聞こえるよ。

っーか、玉のような汗が流れ出て、それが・・・

限りなくエロス！

いやいやいや、限りなく健康的だ！健全だ！

あ、でも汗びっしょりで、この起き上がってくるときの厳しい表情・

・

やっぱ、限りなくエロス！

いやいやいやいやいや！

この汗は、青春だ！

あの先輩たちと流した、心の汗だ！

乙女「・・・ん！200！ふう、ありがとうございました」

いえ、こちらこそありがとうございました。

乙女に敬礼！

次は・・・自転車のマシンですか！！！！

いや、それは裸で乗ったら！

ぶっつっつっ！

いや、何が食い込んでいるかは、言わずと知れたこと・・・  
これは、やばい！

胸も揺れてらっしやるうえに、この食い込みは！

・・・この続きは大盛りで・・・って、くらいやばい！

もし、競輪場の選手がみな女性で裸だったら・・・

俺、毎日でも競輪場に通うっす！

自転車のサドルを作った人・・・あんた、いい仕事したよ！

乙女「はあ、はあ・・・ああ、いい汗かきました」

乙女「シャワー浴びてきますね」

いやあ、とてもいい至福のひとつでした。

今頃、乙女はシャワー浴びて・・・むふ。

「ぎゃあー！」

な！なんだ！

乙女の悲鳴か！

こ！これは！・・・

風呂場にかけてつける俺！

し！失礼します！

・・・って、俺、面接か！

ガラガラガラ！

乙女「そ・・・外にストーカーが！」

なにーーーーー！

乙女の裸は俺のもの……

じゃなくて、ストーカーめーーーー！

ついに現れたな！！

## 第15話 惚れた子に限って彼氏がいる編

俺、ダツシユ!

玄関先までダツシユ!

ビーダツシユ!

うおおおおおおおお!

この変態覗きストーカー野郎があああ!

遠目に見ると、かなりのメタボ野郎!

スピードなら、営業で鍛えた俺のほうが上だ!

しかも、今の俺なら3倍の速さで動くことができる!

界王拳3倍!

ん?

・・・って、あ、ストーカー捕まったら、今の生活が・・・

ストーカーから乙女を守るために家にいさせてもらってるんじゃない・・・

・

ストーカーさん、ありがとうとか思ってたじゃん!俺!

・・・って、ああああ!邪念がああ!

ああああ!究極の選択か!

ドッゴン!!!!!!

妄想してたら、玄関のドアに激しく衝突!

バンバンバンバン

はあビバノンノン。

ああ・・・ドリフが俺の頭の中でグルグル回ってる・・・

「次、いってみよお!」

@@@@@@

う……う……

乙女「大丈夫ですか？」

ん、俺、ベッドで寝かされて……  
って、おっぱいが近!!!!

乙女さん、心配そうに覗き込んでくれているようですが……  
私の視線は常におっぱいに行くわけで……

乙女「ごめんなさい。私のせいでお怪我を……」

いやいやいや!  
ぜんぜん大丈夫っす!

乙女「たんこぶが出来てるようだから、氷で冷やしておきますね」

そか……俺が気絶してる間、乙女は氷をとりかえてて……

乙女「あ、氷が溶けかかっているから、詰め替えますね」

俺の頭上で乙女が氷を入れ替えているようだけど……  
その間、目の前に大きいおっぱいが揺ら揺らしてるんですが……  
どちらかというと、俺の下半身を冷ましていただきたい!

考えてみると、気絶している最中も、俺の目の前を乙女のおっぱい  
が行ったり来たり……

気絶してた、俺のバカ!気絶してたふりをしておけば……

乙女「少し腫れがひいたみたいですね」

あの・・・下半身のほうが腫れてしまいました。

俺「ストーカー・・・捕まえられず、すみません」

乙女「あ、あの、気にしないでください。ストーカーといっても、私の家をずっと見張っているだけで、暴力的なことはまだ・・・」

ブーブーブーブー！

ん、携帯のバイブの音がする。

乙女にもバイブを・・・って、俺、何考えているんだ！

乙女「あ、すみません。携帯が鳴ってるんで」

そっぴや・・・乙女って、いつも携帯、どこに置いてるんだ・・・  
まさか、胸の谷間か！！??

・・・

乙女「・・・あ・・・ううん。でも、まだ私、そんな気になれない  
んです・・・」

乙女「・・・でも、まだ・・・私、怖くて・・・」

ん、なんか電話の内容、深刻そうだな・・・

乙女「・・・でも、まだ・・・あなたとは会えそうにない・・・」

乙女「まだ、気持ちの整理がつくまで」



## 第16話 変態という名の孔明だよ編

姉様「今日は大変だったみたいね」

あの、姉様・・・そんな、だらしな性格好で座つてると大事な部分が丸見えなのですが・・・

とりあえず、乙女は入浴中ということで、こうして姉様の晩酌にお付き合っているというわけで・・・

姉様「まあ、その何かな・・・彼氏・・・の話、シイから聞いてない・・・ようね」

そ・・・そりやそうですよ！

姉様！そんな！俺はCIAじゃないんだから、そんな情報知りませんよ！

こうなつたら、姉様を襲ってしまいそうに！

姉様「実はね、シイには彼氏がいるんだけど・・・まあ、その彼氏もあなたみたいに、そうとうガマンしてたみたいなの」

乙女の裸を見てガマンが必要ないヤツは、ウホ野郎だけかと思いますが・・・

姉様「それでね・・・この間、二人でドライブに行ったときに、ガマンできなくなったらしくて・・・」

姉様「シイを押し倒して・・・自分も裸に・・・シイは怖くて、その場を走って逃げたらしいの」

俺の中で、なんだかパズルの破片がつながってきた！

あの乙女との出会いの夜・・・

彼氏に襲われそうになって逃げたはいいけど、そのまま気を失ってしまった・・・

そこで、俺、登場というわけですか!!!

それにしても、姉様・・・

どうでもいいが、シリアスな話をしている最中も・・・

そんなに足を開いていたら・・・

視点が定まらないではないですか!!!

姉様「今はまだ、シイの気持ちは整理がつかないみたいね」

姉様「あなたの前では、そんな素振を見せないでしょうけど」

はい、ぜ〜〜〜〜んぜん！気付きました。

・・・って、俺って、なんて最低な男なんや！

乙女の気持ちも気付かずに！

・・・って、姉様！あ、そんなに開いたら奥まで・・・！

・・・って、なんだか会話に集中できねえ!!!

乙女「ああ、いいお風呂だった」

って、こっちからは乙女登場!!!

ぬぬ！バスタオル巻いている・・・

いつも裸なだけに・・・

これはこれで新鮮!!!

しかも、体からホカホカといい湯気が・・・  
そして乾かしたての髪・・・

う~~~~ん、これはこれでたまらん!!!  
新鮮だ!なんだかとっても新鮮だ!!

姉様「ねえ、シィ、スズキさんが、ストーカーを捕まえるいい案があるそうよ」

乙女「え?本当ですか!カツオさん!」

ふふふふ!

もう、知的な紳士として俺を売り込んでいく以外、その彼氏に打ち勝つ方法はない!!

ストーカーが現れるのは、平日の日中とのこと。

これでは姉様と俺は仕事だから捕まえられない。

警察に連絡しても、主だった被害がない以上は警察も動かない。

んで、こういう住宅街の平日の日中は、人通りも少ないので怪しまれない。

それを計算して日中に現れるようだが・・・

ふふふ!

今日が祝日だということ知らずに、平日と勘違いして出てきたのが運の尽きよ!

おかげさまで、外見がわかつちやっただもんね。

営業の俺の強み!

営業回りと称して、平日の日中に捕まえてやるというのだ!!!!

ふははははははは!

妄想ストーカー「おのれ！私を捕まえるとは！孔明の畏か！」

妄想乙女「カツオさん、ステキ！けどもの彼氏なんかより、カツオさんのほうがいいわ」

妄想乙女「ご褒美に……私を好きにして……」

なんちて、なんちて、なんちてー！ー！ー！

こりゃもう、何が何でもいいとこ見せるっきゃない！

いくぜ！スズキ カツオ 28歳！！！！

第17話 昼ドラによくある展開って、ねーよ！編

いたいたいたいたいたいた！

この、エロい面したメタボストーカー野郎！  
略してエロボ！！

なるほど、その家の角からなら外からは死角になるし、乙女の家は丸見えに。

こりゃ、いい場所を・・・

・・・ブツ！

乙女、めっちゃめっちゃ窓の近くにいるから丸見えでっせ！

うわ、なんか、ベランダに出てきた。

あ、洗濯物を・・・

うわ、この下からのアングル！！！！

って、イカンイカン！俺は覗き野郎じゃないっつーの！

俺「おい！お前！何やってる！」

エロボ「くぁwせdrftgyふじこīp:~@!~!!」

なんか、誰かみたいなの焦り方だな・・・

俺「お前だな、ストーカーは！来い、警察に突き出してやる！」

エロボ「くぐぐぐぐぐ、ごめんなさいー」

・・・ん、なんかこいつ見覚えのある顔だなあ・・・

エロボ「・・・あれ、なんか、あなた見覚えが・・・」

んんんん???

エロボ「あ、あなた！パパの部下の！！！」

え？パパ?????

エロボ「覚えてますよ！パパを迎えにいったとき、泥酔したあなたが、パパに『飛べない豚はただの豚ですよねえ』とか言ってたの！！」

くぁwせdrftgyふじこーp;@!!!!

まさか、あのメタボ課長の息子！！???

なんちゅう、親が親なら子は子か！！

どうでもいいが、なんかすっげえ、やりづねえ……

こいつ警察に突き出したら……

俺、会社にいれるのだろうか……

しかも、覗きだけじゃ状況証拠しかない！

警察に突き出すだけムダか！

乙女「大丈夫ですか！カツオさん！」

ブッ！！！！！！！！

乙女、ここは外ですよ！外！！

裸で、こっちに来てはいけません！！！！

て、あ……エロボ、目が点になってるよ！！

これではエロボではなく、乙女がわいせつ罪で捕まってしまうっ！

と、とにかく家の中へ・・・

@@@@@@@@@

おい、そんなに舐め回す様に乙女を見るんじゃないやねえ！！

乙女「なんで、私の家の周りをウロウロしてたんですか」

エロボ「・・・・・・・・・・・・・・・・」

いやあ、そりゃ、乙女の裸を見るためなら、俺も同じ行動をしたかも・・・・・・・・

それにしても、怒ってる乙女もかわいいなあ・・・・  
つて、ストーカーのエロボの前でも全裸でお説教・・・・  
サービス良すぎます。

エロボ「す、すみません。あなたを一度、見たときから・・・・ずっと気になって」

エロボ「実は・・・・あの・・・・あなたの彼氏さんを何度か、この家に送ったことあるんです」

ん？何？彼氏を送ったことある？

乙女「え？じゃ・・・・じゃあ、あなたタカギさんのお知り合い？」

何！乙女の彼氏はタカギというのか！そいつこそ、俺の真の敵だ！！

エロボ「え・・・・・・・・ええ・・・・・・・・まあ」

乙女「・・・・・・・・タカギさんの知り合いなのね・・・・わかったわ。今回は許してあげる。」

ええ！乙女！なんと心の広い！

乙女「・・・その、裸を見られるのはいいけど・・・そういう、ス  
トーカーみたいなことは、今後、やめてくると誓ってくれる？」

さらに、裸はOKとは！！

び、ビィナスだ！

まさに平成のビィナス降臨だ！！！！

@@@@@@@@@@

さてさて、ストーカー騒ぎも一見落着・・・って、してねーよ！

メタボ課長と息子のエロボ、そして乙女の彼氏との接点。

なんなんだ！

なんだ、この展開は！

昼ドラか！昼ドラに違いない！



乙女の彼氏が・・・  
超お得意様の・・・

しかも、今、うちのヘッポコ会社の命運がかかっている相手先の・・・  
・  
お偉いさんだなんてー！ー！

こりゃ、二時間サスペンスか！

エロボ「パパはよくタカギさんを接待に誘うんです。それで僕はよく帰りのタクシー代わりに・・・」

エロボ「そんなとき、裸のかわいい子を見れば、誰だって！・・・」  
エロボ「それに、僕、22年間彼女・・・いないし・・・裸の女の人見たの初めてで・・・」

何？ということは、エロボくん！

君も童貞か！！！！

なんか、童貞ということを知ったとたんに親近感が湧いてきた・・・  
もう、争いなんかやめたくなくなるくらいに・・・

世界中の男たちが、みんな童貞だったら。

きつと、戦争なんか起こらないと思う！！！！

ラブ&ピース&童貞！

ガラガラガラ！

姉様「あ、遅れてごめん。なに、こいつがストーカーの正体！想像どおりの奴ね！！！！」

姉様「それにしても、この部屋暑いわね」

って、いきなり姉様、来て早々、いきなり全裸ですか！

つて、ああ！エロボ！再び、目が点になってるし！  
おい、こつちの世界に戻ってこい！！！！

とりあえず、昼間の顛末は姉様に電話で伝えておいたので、荒れることはなかったんですが・・・

なぜか、宴会モードに突入してるんですけど・・・

姉様「そかく、ストーカーくんもかわいそうだよね、まだ、童貞  
なんでしょ」

姉様「おっぱい舐めてもいいよお、ほらほら」

どうでも、いいがエロボ、さつきからカチコチなんですけど・・・  
まあ、姉様までヌーティストという事実から、驚きを隠せてないよ  
うですが・・・

姉様「ほくら、ここなんて、見るの初めてじゃない？ヘアとか、触  
つてみる？」

エロボ「ぼぼjsばあ@s」@だ・・・jそあp」

エロボ、完全に姉様のおもちやだし・・・

つーか、微動だにしない・・・置物か！！！！

というか、本当に女の裸に馴れていないんだなあ・・・

俺の童貞レベルを遥かに超えてるぞ！

姉様「それにしても、シイの彼氏と接点があるなんて驚きね」

姉様「今、シイは彼氏とどういう成り行きになってるのかしら」

そうなんです。

実は、乙女は気持ちの整理をつけるという理由で、タカギ……  
いや！敵に会いにいっているんです。

くそお！気になる！

姉様「ほら、ここ……よく見て……濡れてるのわかる？」

エロボ「jsぽぢゃぽjsぢゃおjsぢゃおjsぢゃおjsぢゃぽぢゃ

……それにしても……

なんか、俺とエロボのキャラ……

微妙にかぶってませんか？……

## 第19話 イケメンエリートvsだめリーマン編

気になる!!!

結局、昨晚、乙女は帰らずじまいだし！

敵とどうい話になったんだー！ー！ー！

それにしても、エロボは朝方までカチコチのままだったなあ・・・  
完全にフリーズしてたな、奴の脳ミソ。

・・・って、パパのメタボ登場！

ん、なんか、血相が変わってるよ・・・

メタボ「もしもし！あ、あのタカギ常務ですか！あの話、もう一度、  
考えさせてほしいというのはどういうことですか！」

・・・

あのお・・・もしかして・・・

やっぱ、俺が犯人なんでしょうか。

ですよね！ですよね！ですよね！

メタボ「おい！カツオ！お前、大至急、オオシマ建設さんところ行ってこい！ー！ー！」

@@@@@@

敵「驚いたよ。まさか、君がシホと暮らしているなんてね」

・・・あの、非常に胃が痛いんですが・・・

敵「昨晚、シホから聞いたよ。シホから君の名前を聞いたとき、どこかで聞いたことがある名前だと思ったけど。まさか、イソノの力ツオさんとはね」

敵「君も知つてのとおり、僕たちの関係は・・・今、非常にギクシヤクしている」

・・・これって、遠山の金さんの裁きですか・・・

敵「でもね、だからといって君がシホと・・・わかるよね、言いたいこと」

はい。重々承知しております。

・・・はあ・・・

うまい話には裏がある・・・

まさか、こんな結末になるとはなあ・・・

やっぱ、俺ってダメな男だよなあ・・・

@@@@@@

さようなら、乙女。

この不況の時代。

会社をつぶすわけには、いきません。

乙女のもと、去ろうと思います。

・・・はあ・・・

真っ暗な部屋・・・

乙女が片付けてくれたままの俺の部屋・・・

もう、帰っても誰もいない・・・

どんどんどん!

はあ、誰ですか・・・

今は一人にしてくれ・・・

「ねえ！いきなり、いなくなるなんて何があったのよ!!」

つて、姉様!!!!

@@@@

姉様「それにしても狭い部屋ね」

あの、姉様、人の家に入ってきて、いきなりそれは・・・

・・・つい、姉様は脱がないんですね!!!!

姉様「あ、なんか、服脱がないのかあつて顔してる」

jそdjはおjsdはおsjだp!!!!

読心術をマスターしてるのか!

姉様「多分、世界中探しても、いきなり人の家で裸になれるのはシ  
イくらいだと思っけど・・・」

た・・・確かに!

最近、感覚が麻痺しまくりです!

誰か、満月草をくれ!

姉様「でもなんか、あなたといて服着てるのも変なかんじね」



めっちゃ、エロカッコイイ!!!

・・・って、姉様を眺めるのもいいが・・・  
乙女になんて話せばいいんだああ!!!

## 第20話・・・そして俺の過去編

姉様「ところで、あんた。シイのこと本当に覚えてないの？」

は？姉様。なんの話ですかい。

そんなことより、姉様。

ハンドル回すたびに、おっぱいぶるぶるして・・・  
目のやり場に困るんですが・・・

姉様「まったく・・・。あなた、何年か前に女子高で先生を殴った  
りしなかった？」

え！なななな！なんで、その事件知ってるんすか！

やっぱり、姉様は読心術をマスターしてるに違いない！

って、そういえば、乙女を助けたときのあの潤んだ瞳

俺、前にもどこかで

@@@@@@

あゝ、だる！

な〜にが、女子高生見放題だ！  
騙された！

確かに、ここは女子高です。

可憐なお嬢様方が通う某有名な女子高です。  
んで、俺はその女子高にいるわけだが。

休日で女子高生いねーじゃねーか！  
女子高なのに・・・今いるのは俺だけかよ！

それに寒い・・・  
とつとと、掃除のバイト片付けて帰るか。

それにしても、昨日の面接・・・  
あの、イソノ建設って会社大丈夫か？  
下の名前が『カツオ』という話題だけで面接終わりかよ！  
これで採用されたら世も末だな。

「やめてくださいー！」

ん？なんだ！  
女子高生の声か！

「俺も、お前のことが好きだったんだよ・・・」  
「・・・でも、まだ・・・あ・・・やめ・・・先生」

な・・・なんですかあ！  
このJK物のAVみたいな会話は！  
えと、ここって美術室・・・

よーするに、美術室で先生と生徒の危険な恋が！  
き・・・来てよかった！

「今まで、ヌードレッスンのモデルやってきたんだろ」  
「・・・先生・・・でも」

「俺の前で、ずっと裸をさらしており、今更エッチはできないっ  
てどついうことだよ」

ぶっ！！！！！！

裸の女子高生を先生が襲おうとしてるよ！

こ！こりゃ、めっちゃめっちゃばいところに居合わせてしまったー  
ー！

あ、でも女子高生・・・

メガネに裸・・・

これはこれで、グツとくる！

つて、俺の変態！

何、欲情してんだ！

「あ・・・やめ・・・」

「はあ・・・はあ・・・ミナ・・・俺、今までずっと我慢してき  
たんだよ」

「・・・でも、もうお前のこと」

こらあ！先生！

生徒の前で、その汚い一物をさらけ出すとは！  
しかも、嫌がってるじゃないか！

「いや！なんで、なんでなの！先生！」

「俺の前で平気で裸になってたたる。誘ってたのは、お前のほうだ  
ろ」

こらあ！

こんな純粹そうな子に、お前！

「だって、それは・・・先生がモデルになってほしいっていうから  
「普通は、その気がなきゃヌードモデルなんてしないんだよ。ほら、  
足開けよ!」

「先生・・・なんで・・・いつも、あんなにやさしかったのに・・・  
」

バキィ!!!!

「ぐはあ!」

俺「こんの、エロ教師!!!!嫌がつてんだろ!!!」

「・・・あ・・・」

俺、めっちゃめっちゃかっこいい!

今、人生で最高にかっこいい!

多分、県内ナンバー1でかっこいい!

俺「大丈夫ですか!お嬢さん!俺のコートを着て、早く逃げて!」

「・・・あ・・・ありがとうございます」

うつわ、メガネの奥の瞳・・・

うるうるしてるよ・・・

しかも、めっちゃめっちゃかわいい!

「・・・な、なんだお前は!何するんだ!」

「うるせえ!この変態教師!俺が相手だ!お嬢さん、今のうちに早く逃げるんだ!」

「あ・・・あの、どなたか分かりませんが・・・本当にありがとうございます  
」

「あ、おい!ミナ・・・!どこに行くんだ!」

@@@@

・・・あの事件・・・

あの、メガネ美少女・・・ミナちゃん・・・

(好きな男の人に、突然、襲われそうになって・・・シィは傷ついたの・・・)

乙女の本名はミナミ シホ

ミナミ・・・

ミナちゃん・・・

そして、あのメガネの奥で潤んだ瞳・・・

あのメガネ美少女は乙女だったんだ!!!

## 第21話 男なら惚れた女を全力で守れ編

姉様「やつと思い出したんだね」

姉様が、この前してくれた話。

乙女が襲われそうになって未遂に終わったのは・・・

俺が助けたからだっただんだ！

姉様「まったく、あんたねえ。シイはあなたのことを見たとき、もしかしたらと思っただんだよ」

俺のバカ！

俺の脳ミソのバカ！

なんで、メガネ美少女Ⅱ乙女だと気が付かなかったんだあああ！

つか、乙女、そんな話、ぜんぜんしてなかったじゃん！

姉様「シイはね。あの事件で、あなたにお礼ができなかったことをずっと悔やんでただけど・・・ま、これが運命ってやつか」

運命！

ジャジャジャジャーーン！

ベートーベンもビックリですわい。

姉様「シイも本当にあなたが助けてくれた人かどうか、自信がなかったみたいね」

姉様「でも、これであなたがその本人ということが分かったわ！」

そか、乙女と俺はそんな接点が・・・

って、分かったからどうなるんだあ！

今更、乙女に会って会社をつぶすわけにはいきません。

このまま、姉様とラブホでも・・・

妄想姉様「ほら、私のここを舐めたければ、ひざまづきなさい！」

妄想姉様「ほんと、卑しい豚ねえ。まだ、おあずけよ」

妄想姉様「両腕を縛られたくらいで、もう、大きくして・・・ほん  
と変態ね」

つて、なぜSM!?

いかんいかんいかん!

何、考えてるんだ俺!

そうこうしてるうちに、もう乙女の家だよお!

姉様「ほら、行ってきなさい! シィにあなたの気持ちを伝えるんだ  
よ!」

つて、姉様! 何言ってるんですか!

俺はもう・・・

姉様「私は邪魔にならないように、ちょっとドライブにでも行って  
くるわ」

つて、姉様! 裸のままドライブって!!

逮捕されちゃいますぜ・・・

・・・つて、あ、行っちゃった。

と、とりあえず、乙女になんて言えばいいんだ。

ここは、勇気を出して中に・・・

・・・ん？玄関に男物の靴？？？  
あれ、まさか！？

「俺は、お前と別れるなんて考えられないんだよ！」

タカギの声！！

なぜ、ここに敵がいるんだあ！

敵「俺は、ずっとシホのことをこれだけ愛しているのに」

乙女「ごめんなさい・・・私、やっぱり、あなたのことを・・・」

敵「俺が、どれだけガマンしていたか、わからないんだろ！」

乙女「・・・そんな・・・私の体が目的・・・」

敵「い、いや、体が目的じゃないけど・・・でも、もうガマンの限界なんだよ」

乙女「・・・あ、やめ・・・」

つて、おい！エロ教師といい、敵といい・・・

これだから、男はけだものだって思われるんだよ！

俺「おい、やめろよ！」

乙女「あ、カツオさん！」

敵「なんだなんだあ！君は！こうまでして、俺たちの仲を邪魔したいのか！」

俺「仲つて！シホさん、嫌がつてるじゃないか！！」

敵「お前だって、シホを抱きたいんだろあ！最高だよな、この体！」

この変態野郎！！

敵「おっと、もちろん、手を出したら分かってるよな。君の会社、潰れるよ」

!!!くそ!!!

敵「はあはあ、シホ……」

乙女「あ……やだ……やめて……ください」

この野郎！乙女の胸を舐めまわしやがって！

乙女「助けて……」

敵「いいのかい？一時の感情で動いても」

俺は！

俺は!!!

俺は!!!

ぜってー……に、乙女を！

シホを守る!!!

## 第22話 続・男なら惚れた女を全力で守れ編

この野郎！俺の鉄槌をくらいやがれ！

敵「ぐは！！！」

俺「今のうちにシホさ・・・」

つて、腹に思いつきりパンチが・・・

いってえ・・・

い・・・息もできねえ・・・

敵「おい！てめえ、なめんな！それに、シホ、逃げるんじゃないよ」  
乙女「離してください！」

くそお・・・

タカギの野郎、強え・・・

というか、俺が弱いのかよ・・・

敵「ほら、シホ・・・今日こそ、俺と結ばれるんだよ」  
グチユウ

乙女「あ・・・やめ・・・や・・・」

な！！！！乙女の唇を奪いやがって！！

しかも、そのいやらしい手はなんだあ！

くそお！これじゃあ、レイプものAVじゃないか！

ぐ・・・くそ、腹がいてえ・・・

敵「ほらあ、シホ、嫌がつてるわりには、ここはこんなに濡れてきたじゃないか」

乙女「・・・あ・・・いや・・・た・・・助けて」

くっそお！

腹いてえ！

でもなあ！

乙女を助けられなければ、心のほづが痛いんだよお！...！  
うおおお！

敵「お、まだ動けるのか・・・ぐは！..！」

乙女「カツオさん！！！」

はあはあ・・・

な・・・なんか・・・

俺、めっちゃめっちゃ、かつこいい！！

俺の拳が火を吹いたぜえ！

タカギ！

これが、正義の鉄拳だ！

敵「や・・・やろお」

敵「俺はなあ！俺はなあ！シホ！おめーをぜってえ誰にも渡さないからな！」

乙女「・・・タカギさん・・・結局、あなたは私のことを自分のものにしたいだけだったのね」

乙女「あの時の先生もそう・・・やさしかった人が・・・なんで、こんな変わっちゃうの！もう嫌なの！」

乙女・・・

敵「お前が！お前のその体が、男を狂わせるんだよお！」

乙女「・・・そんな・・・タカギさん・・・あなたまで、変わってしまうの・・・」

乙女・・・

俺、お前のことを一生、守っていきたい！

敵「俺のものにならないんならなあ！いつそ、殺して！！！」  
俺「シホ！危ない！！！」

・・・ザグツ！

あれ・・・

なんか、お腹にハサミが刺さって・・・

なんか、血が・・・

あれ、なんだか気が遠くなって・・・

ランランランランラン

ランランラン

うっわぁ・・・

なんか、頭の中でナウシカが・・・

タカギ・・・

なんか、絶句してるようだけど・・・

はぁ・・・これで、会社潰れちゃうんだろうなあ・・・

ごめんな・・・

会社のみんな・・・

シホ・・・

なんでなんで、そんなに泣いてるんだ・・・

そんな顔しないでよ・・・  
笑顔の君が好きなんだから・・・

「・・・な・・・いで」

「・・・なな・・・いでえ」

「死んじゃ、いやあ！」

俺・・・死ぬのか・・・

あっけねえ人生だった・・・

童貞のまま死ぬのかあ・・・

かつこ悪・・・

ん、なんか唇が・・・

あれ、乙女の顔がすごく近くに・・・

乙女の唇・・・

やわらかいなあ・・・

### 第23話 いい人ってことはそれ以上はないよね編

天国・・・

ここは天国・・・

そう！ナース天国！！

いやあ、俺の生命力って異常だね！

腹にハサミが刺さったんですよ！

いやあ、一時はどうなるかと思ったけど、なんとか生き延びています。  
あ、でもまだ腹は痛むっす。

ナースさん、やさしくケアルかけてくれよお。

「おい！大丈夫だったのか！」

つて、メタボ！！！！

メタボ「いやあ、会社のみんな心配してたんだぞ」

どうでもいいが、なんでメタボが代表で見舞いにくるんだ！  
暑苦しい！また、悪化しそうだ。

メタボ「それにしても、あのタカギって野郎、とんでもないやつだ  
ったんだな」

メタボ「オオシマ建設さんもな、今回の不祥事でうちの会社に気を使ってくれてよ。思わぬ仕事が舞い込んで、大忙しだよ。早く復帰して手伝えよ！じゃ、お大事に」

つーか、その仕事、俺のおかげですよねえ。

これ二階級特進ものですよ。  
死んでないけど・・・

ガチャ！

姉様「ねえ、大丈夫！」

あ・・・大丈夫だから生きてるんですが。

姉様「よかったあ。ほんと、あの時はビックリしたのよ。嫌な感じがして、戻って見たら、あなたが血まみれで倒れてるんだもん」

確かに、あの状況で姉様の応急処置がなければ死んでたから・・・  
感謝！

姉様「ほらほら、シイ、入ってきなよ。元気そうだよ」

うはあ！乙女！来てるんですか！  
そだよなあ・・・昨日までは面会謝絶で、ナースしか会えなかったからなあ。  
なんか、緊張する。

乙女「・・・あの・・・」

服着てるのかあ・・・  
病院だしなあ・・・  
残念・・・  
つて、俺の変態！

姉様「あ、じゃあ、後は二人っきりで話しててね！」

乙女「あ……」

お……乙女と二人きりですか……  
なんで、今更緊張してるんだ……俺

俺&乙女『あ……あの』

うわ、なんか気まずい……

乙女「あの、助けていただいて本当にありがとうございます」  
俺「あ、いやいやいや！当然のことをしたまですよ！ははは」

俺が意識を取り戻した一番の原因は……

乙女の唇だったんだよね……

あのキスの味は絶対に忘れない！  
って、中学生か！

乙女「……あの、私、いつもいつも、あなたに助けられてばかり  
で……」

俺「男だったら、女性を守るのは当然のことですよ」

乙女「あの、私……あなたのこと……」  
俺「……」

乙女「あなたのこと、ほんとにいい人だなんて」

って、いい人かよ！

ガーーーーーン！

『いい人』』『それ以上はない人』って、意味なんだよねえ

乙女「だから……あなたとなら……その……」

ん、だから？

乙女「安心できるというか・・・あの・・・」

なんか、乙女の顔、真っ赤ですよ。

乙女「ずっと・・・そばにいて・・・ほしいな」

俺「は・・・はい・・・」

はい！つて、俺！！

なんか、もつと気の利いたセリフがあ！

つて、これってなに？

こ・・・告白ですかあ！！???

乙女「今、私にできることは・・・」

ぶつつつ！

乙女！ここ病院ですよ！

脱いじゃ、まずいつて！！

乙女「あの・・・私・・・あなたなら・・・し・・・してもいい・・・」

「・

くあwse d r f t g y ふじじーp・@!!!!

先生!!!!

全裸の乙女から、思いもよらない発言が!!

ええ！いいんですか!!

俺なんかでいいんですか!!

・・・つて、痛てててて!!

腹があああ!!

乙女「あの、私の裸で元気になれるなら、いつでも見てもらっていいんで。早く元気になってください。私、いつまでも待ってますから」

あのお！下半身は元気なんですが！

うっす！俺、はやく元気になるっす！

そして、乙女！

シホ！

お前のごとをずっと守っていくからね！！



毎日、乙女がお出迎えしてくれて、  
こうして、乙女の作るご飯が食べれて、  
そして、今では……

こうして、ベッドの中で乙女といれるわけで！

乙女「明日は大学の卒業式かぁ……もう少しで社会人になるんだ  
なあ」

そかぁ、乙女もとうとう社会人かぁ。

とはいえ、姉様の会社を手伝うことになってるんだけどね。

っ！か、乙女、某有名大をどうやら主席で卒業するとか……

顔良し！スタイル良し！性格良し！

そして、頭も良し！って、神様は一体、乙女にどんだけ才能あたえてんだ！

乙女「社会人かぁ……」

社会人ですねぇ。

もう学生じゃないんだよね。

乙女「ねぇ……ずっと私を守ってくれてるって言うてくれたよね……」

そりゃもう！

何度でも、守りますよぉ！！

あ、でもハサミで刺されるのはゴメンですが……

乙女「……あのね……実は、私の他にも守ってほしい人がね……」

・いるんだけど」

へ？

って、乙女！

俺はボディガードじゃありませんぜ！！

乙女だからこそ守るんであって、他に誰を守れっていつんですか！

乙女「あのね・・・」

乙女「その・・・守ってほしい人ってというのは・・・」

乙女「まだ、私のお腹の中にいるんだけどね・・・」

・・・ん？

お腹の中に？

はいいいいいいい！！！！

え、なにになになに！

乙女「だから、明日の卒業の後に、正式なパパになってくれないかなって」

パパ！

おお！ダディ！！！！

まじっすか！！！！

乙女と・・・結婚！！

しかも、子どもまで生まれるってえことですかい！！！！

うううううううううううう！！

生まれてきてよかったーーーー！！

乙女「私と、生まれてくる子どもを、ずっと守っててね」

うっす！

俺、二人分！

守るッス！

一生かけて、守っていくッス！

だから、乙女も・・・

シホも・・・

ずっと、俺のそばにいてくれよな

ぴゅあ・ヌーティスト&妄想特急  
E N D

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5967f/>

---

ぴゅあ・ヌーディスト&妄想特急

2010年10月8日15時11分発行